

報告 万博会場でart bridgeの作品を展示 2025年7月26日(土)・27日(日)

EXPO2025に懸ける7つの思い

art bridge® x Art to Live®

もっと身近にインクルーシブアート

7月26日(土)・27日(日)の2日間、EXPO2025大阪・関西万博ギャラリーWESTで、Art to Liveの展覧会『アートを社会で活かす』が開催され、当協会が事業主体として展開しているart bridgeの作品7点が展示されました。

Art to Liveは、大阪府が推進する「2025大阪・関西万博に向けた障がいのあるアーティストによる現代アート発信事業」として、2024年6月に始動。本展では、大阪府内の福祉施設や団体がアートを介して他分野と連携した7事例の紹介、展示・映像・ワークショップなどが展開されました。

art bridgeは、その事例の1つとして作品7点のほか、事業紹介パネルや作品の設置写真などで取り組みを伝えました。また、来場した作家のMOMOさんの家族も、展示された作品を目の当たりにして感動した様子でした。

art bridgeは、多様な背景を持つアーティストの作品を貸し出し、その感性に触れることで理解を深めてもらうことを目的とするプロジェクトです。万博という国際的な舞台を通じ、その理念を広く発信するとともに、アーティストの社会参加意識が高まる貴重な機会となりました。



『Art to Live』(万博会場ギャラリーWEST)



作品(左)の前でほほ笑むMOMOさん

予告 2025年度は、このアーティストたちに注目！

大阪中之島美術館×関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE

おおさか ディレクトリ サポート バイ リチャード ミル

関西ゆかりの若手アーティストの作品を個展形式で紹介する本企画は、今年で4年目になります。大阪中之島美術館を舞台に、次代のアートシーンを彩る若き才能が登場します。

金光男

11月15日(土)~12月14日(日)



出身地大阪で初となる美術館での個展にあたり、自身の家族のルーツにも関わる、蟬が溶けてゆく流動的な作品を発表します。



本展のための参考画像 2025年

天牛 美矢子

12月20日(土)~2026年1月18日(日)



(撮影: Ujin Matsuo)

歴史や神話など、本の挿絵を思わせるイメージを布や皮などを使って表現。大空間を活かしたインスタレーションを展開します。



《あの子らはええね》2023年 (撮影: 今村裕司)

和田 真由子

2026年1月24日(土)~2月23日(月・祝)



(撮影: 福永一夫/Fukunaga Kazuo)

「イメージにボディを与える」をコンセプトに、立体・平面作品を制作。馬や鳥など、自身が抱くイメージの再現を試みます。



《ヨット》2013年 (撮影: 児玉画郎)

協賛

サントリーホールディングス株式会社、ロート製菓株式会社、NTT西日本株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社、株式会社モンベル、株式会社エクスプレス、京阪ホールディングス株式会社

会場: 大阪中之島美術館 2階多目的スペース 観覧料: 無料